

## 平成 27 年度 大竹市地域公共交通活性化協議会 事業経過報告

## 1 概 要

本協議会は、市域における住民生活に必要なバス等の旅客輸送の確保ならびにその他旅客の利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現を目的とし、市民・事業者・関連行政機関等が協議・連携する場として、平成 20 年 3 月 25 日に発足した。

平成 20 年度には、基礎調査、アンケート調査、住民ワークショップ等を実施し、平成 21 年 3 月、これからの公共交通施策の根幹ともいえるべき「大竹市地域公共交通総合連携計画」を策定し、市民のための持続可能な公共交通体系の構築を目指し、各種事業に取り組んできた。

平成 26 年 3 月には、これまで進めてきた公共交通づくりに資する基本方針を踏襲するとともに、引き続き、持続可能な公共交通体系を構築するため、「第 2 期大竹市地域公共交通総合連携計画」を策定し、計画に則り、以下の事業を実施した。

## 2 平成 27 年度の事業内容

## (1) 活性化協議会の開催

地域の実情に即した輸送サービスについて審議・決定するため、協議会を 2 回開催した。

	開催日	出席者	傍聴者	主な審議内容
第 1 回	5 月 12 日	15 人	0 人	○平成 26 年度事業経過報告・収支決算報告 ○平成 27 年度事業計画、収支予算
第 2 回	12 月 22 日	17 人	0 人	○大竹・栗谷線バスの事業計画の変更について ○坂上線バスの事業計画の変更について ○栄ぐるりんバスの運行計画の変更について ○湯舟のりあいタクシーの運行計画の変更について ○栄ぐるりんバスの広告に関する取り決めの変更について

【事業費】 報償費：115,000 円 (@5,000 円×23 人 (2 回分))  
食糧費： 4,310 円

## (2) 幹線交通検討分科会の開催

恵川橋橋りょう修繕工事に伴うこいこいバスの運行ルートの変更(迂回路の設定)、こいこいバス利用者アンケート調査の実施等について協議するため、分科会を 2 回開催した。

こいこいバスの運行ルートの変更については、工法等を見直すことにより通行止め期間が短縮され、平成 28 年度から工事を実施することとなったため、平成 28 年度に改めて迂回路等について検討することとなった。

こいこいバス利用者アンケートについては、調査の実施概要、調査項目等を審議・決定した。

こいこいバスと栄ぐるりんバスの乗継割引については、「まずは、平成 27 年 4 月

から運行内容を変更しても利用者が増えていない原因を検証すべきである」「栄ぐるりんバスを知ってもらうよう老人クラブや会合などでPR活動に取り組むべきである」などの意見が出され、「乗継割引は導入しない」こととなった。

こいこいバス運行6周年記念事業については、「累計利用者数50万人突破記念」と合わせてポケットティッシュを作製し、こいこいバス車内、各支所、社会教育施設、市役所窓口に備え付け、自由に取っていただくこととなった。

	開催日	出席者	主な協議内容
第1回	6月18日	4人	○こいこいバスの運行ルートについて ○こいこいバス利用者アンケートについて ○こいこいバスと栄ぐるりんバスの乗継割引について
第2回	10月6日	5人	○こいこいバス運行6周年記念事業について ○こいこいバスの運行ルートの変更について

<b>【事業費】</b> 食糧費：900円
-----------------------

### (3) こいこいバスの運行

平成21年10月から実証運行を開始し、平成24年4月に本格運行へ移行した。

平成27年度は、晴海の商業施設の無料送迎バスが10月末に廃止されたため、11月以降は利用者が急増し、年間利用者数(111,870人)、月間利用者数(3月：12,082人)、1日の利用者数(3月25日金)：572人、収支率(82.23%、広告収入・販売収入含む)が過去最高を更新した。

また、11月には「バスエコファミリーキャンペーン」を実施した。

<b>【受託者】</b>	(有)大竹交通、(有)大竹タクシー									
<b>【運行期間】</b>	平成27年4月1日～平成28年3月31日									
<b>【運行区間】</b>	JR大竹駅～JR玖波駅(全長：8.0km、停留所：19か所)									
<b>【運行日数】</b>	毎日運行(平日：246日、土日祝日：120日、計：366日)									
<b>【運行便数】</b>	平日：34便、土日祝日：32便									
<b>【利用者数】</b>	111,870人 ※平均値：305.5人/日、9.16人/便 (4～10月：56,099人(262.1人/日、7.86人/便) 11～3月：55,771人(366.9人/日、11.00人/便)									
<b>【運行経費】</b>	26,685,462円 ※2台運行									
<b>【事業収入】</b>	21,942,808円(収支率：82.23%)									
	<table border="0"> <tr> <td>運賃収入：18,194,712円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>販売収入：3,466,000円</td> <td>(事務局販売)</td> </tr> <tr> <td>広告収入：228,096円</td> <td>(ベンチ)</td> </tr> <tr> <td>広告収入：54,000円</td> <td>(車内)</td> </tr> </table>		運賃収入：18,194,712円		販売収入：3,466,000円	(事務局販売)	広告収入：228,096円	(ベンチ)	広告収入：54,000円	(車内)
運賃収入：18,194,712円										
販売収入：3,466,000円	(事務局販売)									
広告収入：228,096円	(ベンチ)									
広告収入：54,000円	(車内)									
<b>【補助金額】</b>	8,208,654円 ※事務局販売は除く									
<b>【関連事業費】</b>	遮光フィルム貼付：108,000円	バスエコファミリー補てん：12,500円								
	ポケット時刻表印刷：37,500円	代車用マグネット作製：69,120円								
	回数券等印刷：38,880円	定期券払戻：4,700円								
	無料運行補てん：49,400円	座席シートカバー作製：142,560円								

#### (4) 三ツ石地区乗合タクシーの運行

平成 21 年 10 月から実証運行を開始し、平成 24 年 4 月に本格運行へ移行した。最も利用者数が多かった平成 23 年度以降、利用者が減少傾向にあるものの、運行・運営状況は他の乗合タクシーと比べて最もよい。

昨年度と比べると、年間の利用者数が 4 人少なくなっているものの、1 台あたりの利用者数、収支率は増加している。

なお、大竹地区のタクシー料金の改正に伴い、平成 27 年 12 月から乗合タクシー（ひまわりタクシー、湯舟のりあいタクシー含む）の運行経費（委託料）を変更した。

【受託者】	南大竹交通
【運行期間】	平成 27 年 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 3 月 31 日
【運行区間】	三ツ石地区 ~ ゆめタウン大竹または市役所
【運行日数】	155 日（毎週月・火・金曜日運行） ※1/1~1/3 運休
【運行便数】	11 便/日（行き 5 便、帰り 6 便）
【利用者数】	1,259 人（737 台） ※平均値：1.71 人/台
【運行経費】	718,710 円（ 4~11 月：@930 円×515 台 12~3 月：@1,080 円×222 台
【運賃収入】	286,131 円（収支率：39.81%）
【補助金額】	432,579 円

#### (5) ひまわりタクシーの実証運行

平成 23 年 7 月から玖波 7 丁目で実証運行を開始し、平成 24 年 1 月には運行区域に玖波 8 丁目を編入した。

玖波 8 丁目を運行区域に編入して以降は利用者が増加傾向にあったが、平成 27 年度は初めて利用者数、収支率が前年度を下回った。

【受託者】	南大竹交通
【運行期間】	平成 27 年 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 3 月 31 日
【運行区間】	玖波 7・8 丁目 ~ JR 玖波駅または広島西医療センター
【運行日数】	155 日（毎週月・火・金曜日運行） 1/1~1/3 運休
【運行便数】	11 便/日（行き 5 便、帰り 6 便）
【利用者数】	1,038 人（663 台） ※平均値：1.57 人/台
【運行経費】	625,190 円（ 4~11 月：@830 円×142 台+@930 円×321 台 12~3 月：@900 円×40 台+@1,080 円×160 台
【運賃収入】	220,627 円（収支率：35.29%）
【補助金額】	404,563 円

#### (6) 湯舟のりあいタクシーの実証運行

平成 24 年 1 月から実証運行を開始した。

利用状況が芳しくなかったため、平成 25 年 9 月と平成 26 年 12 月に運行内容を変更し、徐々に利用者が増加していたが、更に利用状況を改善するため、再度、地区住民の意見をとりまとめ、平成 28 年 2 月に運行内容（運行ダイヤ）を変更した。

運行内容変更前と比べると、平成 28 年 2 月以降は利用状況（利用者数、収支率）が改善している。

【受託者】	(有)大竹交通
【運行期間】	平成27年4月1日～平成28年3月31日
【運行区間】	湯舟地区～広島西医療センターまたはゆめタウン大竹
■4月1日～1月31日	
【運行日数】	130日(毎週火・水・金曜日運行)
【運行便数】	10便/日(行き5便, 帰り5便)
【利用者数】	265人(195台) ※平均値: 1.36人/便
【運行経費】	188,700円 (4～11月: @930円×146台 12～1月: @1,080円×49台)
【運賃収入】	60,223円 (収支率: 31.91%)
【補助金額】	128,477円
■2月1日～3月31日	
【運行日数】	26日(毎週火・水・金曜日運行)
【運行便数】	10便/日(行き5便, 帰り5便)
【利用者数】	97人(58台) ※平均値: 1.67人/台
【運行経費】	62,640円 (@1,080×58台)
【運賃収入】	22,045円 (収支率: 35.19%)
【補助金額】	40,595円
■平成27年度(年間)	
【運行日数】	156日
【利用者数】	362人(253台) ※平均値: 1.43人/台
【運行経費】	251,340円
【運賃収入】	82,268円 (収支率: 32.73%)
【補助金額】	169,072円

#### (7) 栄ぐるりんバスの実証運行

平成24年2月から実証運行を開始した。支線交通としては、唯一の定時定路線型バスを運行している。

利用状況が芳しくなかったため、平成25年9月と平成27年4月に運行内容を変更したが、利用状況が改善しないため、運営状況の改善を目的に平成28年2月に運行内容を変更(運行日を削減)した。

運行内容変更前と比べると、平成28年2月以降の利用状況は、同水準で推移している。

【受託者】	(有)大竹タクシー		
【運行期間】	平成27年4月1日～平成28年3月31日		
【運行区間】	JR大竹駅～栄地区巡回～JR大竹駅	全長：8.2km,	停留所：25か所
■4月1日～1月31日			
【運行日数】	262日(毎週月・火・水・木・金・土曜日運行)	※休日運行	
【運行便数】	14便/日(青ルート8便,赤ルート6便)		
【利用者数】	5,002人 ※平均値：19.1人/日 1.36人/便		
【運行経費】	8,299,270円		
【事業収入】	965,680円(収支率：11.64%)		
	(運賃収入：872,800円 広告収入(車外)：92,880円)		
【補助金額】	7,333,590円		
■2月1日～3月31日			
【運行日数】	42日(毎週月・火・水・木・金曜日運行)	※休日運休	
【運行便数】	14便/日(青ルート8便,赤ルート6便)		
【利用者数】	784人 ※平均値：18.7人/日 1.33人/便		
【運行経費】	1,437,182円		
【事業収入】	136,828円(収支率：9.52%)		
	(運賃収入：132,400円 広告収入(車外)：4,320円 広告収入(車内)：108円)		
【補助金額】	1,300,354円		
■平成27年度(年間)			
【運行日数】	304日		
【運行便数】	14便/日(青ルート8便,赤ルート6便)		
【利用者数】	5,786人 ※平均値：19.0人/日 1.36人/便		
【運行経費】	9,736,452円		
【事業収入】	1,102,508円(収支率：11.32%)		
	(運賃収入：1,005,200円 広告収入(車外)：97,200円 広告収入(車内)：108円)		
【補助金額】	8,633,944円		
【関連事業費】	停留所標識貼替：49,745円(結節点整備費)		

(8) その他, 新たな支線交通の検討と導入

平成27年度中は, 新たな公共交通に関する要望・相談はなかった。

(9) 大竹・栗谷線の見直し

平成26年1月22日に開催した「大竹・栗谷線バスについて考える座談会」において出された意見や要望等について, 改善策を検討し, 松ヶ原地区(10月28日, 11月30日), 栗谷地区(12月1日)で座談会を開催し, より利用しやすいバスにするため, 運行内容を変更した。(変更日は平成28年4月1日)

【関連事業費】	大竹駅既設バス停撤去：70,200円	(結節点整備費)
	バス停標識新設・取替：505,980円	(結節点整備費)

(10) 坂上線の見直し

美和中学校に通学する生徒の利便性を向上させるため、下り（大竹駅⇒鮎谷）第1便の終点を美和総合支所に変更（バス停の新設）し、運行ダイヤを変更した。（変更日は平成28年4月1日）

【関連事業費】 バス停標識取替：45,360円（結節点整備費）

(11) 広報紙による啓発記事掲載

市発行の「広報おおたけ」に公共交通や協議会の取り組みに関する記事を毎月掲載し、市民への情報提供及び啓発を実施した。

8月号では、「地球温暖化防止」をテーマに、自家用車・バス・鉄道の二酸化炭素排出量についての記事を掲載した。

【事業費】 印刷製本費：388,201円（@1.58円×11ページ×12,600部+消費税（5～11月号）  
@1.58円×7ページ×12,700部+消費税（12～4月号）

(12) バスエコファミリーキャンペーンについて

平日に比べて土日の利用者が少ないことから、土日祝日の利用を促進するとともに、モビリティ・マネジメントの一環として、こいこいバスについては、11月の土日祝日に限り、大人に同伴する小学生を無料とするキャンペーンを実施した。（平成23年度に実施し、平成24年度からは恒例行事とした。）

【事業費】 小学生分補てん：12,500円（125人分）《再掲》  
【利用実績】 平成23年度：29人、平成24年度：57人、平成25年度：71人、平成26年度：50人  
平成27年度：125人

(13) 広告の募集について

こいこいバスと栄ぐるりんバスの収入を確保するため、市広報9・1月号にこいこいバス（ベンチ広告、車内広告）と栄ぐるりんバス（車外広告、車内広告、停留所標識広告）の広告募集記事を掲載した。

【平成27年度広告料収入】 《再掲》  
こいこいバス：1社、228,096円（ベンチ広告22か所（44枠）分）  
こいこいバス：2社、45,360円（車内広告11か月×2台分、10か月×2台分）  
栄ぐるりんバス：3社、97,200円（車外広告12か月×3枠分、8か月×3枠分、1か月×3枠分）  
栄ぐるりんバス：1社、108円（車内広告1か月×1枠分）

(14) 本格運行への移行を判断する基準の検討

実証運行中の支線交通（ひまわりタクシー，湯舟のりあいタクシー，栄ぐるりんバス）の各運行委員会において、「どの程度の利用状況であれば本格運行への移行について市民の理解が得られるか」という視点で「本格運行への移行を判断する基準」を検討した。

湯舟のりあいタクシーについては，運行委員会で「基準」を「利用者数 60 人/月，収支率 35%」とすることが決定し，平成 27 年 12 月 22 日に開催された活性化協議会で報告し，承認された。

ひまわりタクシー，栄ぐるりんバスについては，運行委員会で協議したものの，現時点では決定していない。

(15) 大竹市地域公共交通総合連携計画事業推進業務

総合連携計画の計画事業をより円滑かつ効果的に実施するため，専門的知識・ノウハウを有するコンサルタントに業務を委託した。

<p>【受託者】 株地域未来研究所中国四国事務所</p> <p>【業務名】 平成 27 年度大竹市地域公共交通総合連携計画事業推進業務</p> <p>【履行期間】 平成 27 年 5 月 13 日 ～ 平成 28 年 3 月 28 日</p> <p>【業務内容】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◇ 本格運行路線の検証<ul style="list-style-type: none"><li>・こいこいバス及び三ツ石地区乗合タクシーの利用状況の検証</li><li>・こいこいバス利用者実態把握アンケート調査の制度設計，アンケート調査の実施及び調査結果の整理</li></ul></li><li>◇ 実証運行路線の検証<ul style="list-style-type: none"><li>・ひまわりタクシー，湯舟のりあいタクシー，栄ぐるりんバスの利用状況の検証</li></ul></li><li>◇ 大竹・栗谷線及び坂上線の検証<ul style="list-style-type: none"><li>・大竹・栗谷線及び坂上線の利用状況の検証</li></ul></li><li>◇ モビリティ・マネジメントの実施支援<ul style="list-style-type: none"><li>・こいこいバス利用者 50 万人突破記念で配付したポケットティッシュのカバーデザインの作成，製作</li><li>・広報紙への掲載記事作成支援</li></ul></li><li>◇ スクールバスの生活交通への活用<ul style="list-style-type: none"><li>・スクールバスを生活交通として活用（混乗化等）する場合の留意点や考え方の整理</li></ul></li></ul> <p>【事業費】 2,000,000 円</p>
---

### 3 大竹市公共交通活性化基金の活用

平成 23 年度に米軍再編に伴う防衛省の再編交付金を活用し、公共交通活性化基金を造成した。平成 24 年度からこいこいバスと支線交通の計 5 路線を対象とし、運営経費の財源として活用している。

なお、平成 27 年度に 94,558,000 円を積み増した。

【基金名】	大竹市公共交通活性化基金	※( )は、積み増し後の数値。
【造成日】	平成 24 年 3 月 29 日 (平成 28 年 3 月 31 日)	
【基金額】	105,000,000 円 (199,558,000 円)	
【再編交付金額】	102,585,000 円 (197,143,000 円)	
【事業年度】	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度 (平成 24 年度 ~ 平成 37 年度)	
【繰出金】	平成 24 年度 : 14,236,447 円	こいこいバス : 4,742,654 円 三ツ石地区乗合タクシー : 432,579 円 ひまわりタクシー : 404,563 円 湯舟のりあいタクシー : 169,072 円 栄ぐるりんバス : 6,384,000 円
	平成 25 年度 : 16,037,693 円	
	平成 26 年度 : 16,973,885 円	
	平成 27 年度 : 12,132,868 円	
【基金残高】	153,785,482 円 (平成 28 年 3 月 31 日現在)	